

令和 7 年度事業報告

1 概 況

現在、日本では「人生 100 年時代」と言われるほど長寿化が進んでいます。これに伴い、高齢者が「支えられる側」から「支える側」へと意識を転換し、社会の中で活躍し貢献する機会が増えてきています。

文京区シルバー人材センター(以下、「当センター」と言う。)は、高齢者の就労を支援し、地域社会に貢献するための重要な役割を担っています。また、高齢者が「生きがい」や社会参加の場を得られるよう支援することで、社会全体の活性化にも寄与することを目指しています。

このような中、当センターは、区内の高齢者が就業を通じて地域社会に貢献し、生きがいを得る場として重要な役割を担うとともに、地域共生社会の実現に向け、時代に即した事業展開を進めていくことが求められています。

当センターでは、令和 7 年度に「文京区シルバー人材センター中長期計画(2023 年度～2027 年度)」(令和 5 年度に策定)の中間の見直しを行い、新たな事業目標を再設定しました。

また、就業開拓の分野では、令和 7 年度より、民間企業及び文京区のご協力を得て、地域共生社会の実現を見据え、新しい認知症観に正面から取り組む「エルジョリコ※」事業を立ちあげました。

※エルジョリコ (eljoreco : 年長者が仕事の喜びを思い出す) とは、エルダー

(elder : 年長者・先輩)、ジョブ (job : 仕事)、リコレクション (recollection : 回想・記憶) をあわせた造語。

また、会員の皆様の仕事に対する真摯な姿勢に加え、安全巡回の拡充や体力測定の実施など、事故の防止に向けて様々な対策を講じたことが発注者側への安心感にもつながり、請負事業の契約金額は約 4 億 7,940 万円(前年度比プラス約 30 万円で約 0.1%)の増、シルバー派遣事業の実績を加えますと、契約金額は約 5 億 6,480 万円(前年度比プラス約 800 万円で約 1.4%)となり、前年度に引き続き過去最高を更新しております。

また、全国的には、シルバー人材センターの会員数の減少が大きな課題となっておりますが、当センターでは、会員数の増加傾向が継続しております。令和 8

年3月31日現在の会員数は、1,493人（対前年度比31人）の増、会員の就業については、一人が年間に一回以上就業した就業実人員数は、1,095人で、就業率は73.3%（前年度は1,074人、73.5%）となりました。今後も引き続きこの傾向を堅持するように注力してまいります。

2 目標別取組状況

(1) さらなる会員の確保

センターが持続的な事業展開を図る上で、会員の維持及び確保は重要課題であると認識しています。近年、会員数は増加傾向が続いていますが、例年、上半期に入会者が多く、その後、徐々に減少していく傾向があります。そのため、令和7年度には、東京しごと財団主催「Tokyo シルバー50 周年フェス」では、就業風景のパネル展示等を行ったり、入会キャンペーンを実施の際には、既存の会員に新規入会者の紹介をお願いしたりするなどして、入会者の確保を図りました。

① 広報媒体の見直し

センターのホームページ、LINE 広告、リスティング広告など Web による発信を拡充したほか、都営地下鉄春日駅への通年広告看板の設置、「コミュニティバス Bーぐる」への車内デジタル広告を継続実施しました。

② 継続的な広報活動の充実

区報ぶんきょうへの活動記事の掲載や会員募集チラシの区内全世帯へのポスティングを展開し会員募集に努めました。さらに、新規入会キャンペーン、会員募集案内パンフレットを区内9か所の地域活動センターなどに配架等様々な広報活動を展開することにより周知に努め、当センターの理念に賛同して、働く意欲を持った高齢者の加入促進を図りました。

③ その他

退会会員を減少させる取組としては、地区地域班の活動費を増額し、柔軟な地域活動を推奨することを通じて退会会員の減少に努めました。さらに、会員枠を設け、お手軽料理教室を実施するなど、会員満足度の向上にも努めました。

(2) 就業機会の拡充と就業の質の向上

当センターでは会員のたゆみない努力により、地域や発注者からの信頼を積み重ね、着実に事業規模を伸ばしてまいりました。

また、政策目的随意契約の拡充のため、文京区長に対して、会長、副会長及び常務理事による当センターの活動への支援要請を行いました。

① 行政向け事業の拡充

文京区の各部署に対しては、派遣事業も含めた発注獲得のための営業活動を実施するとともに、政策目的随意契約の働きかけを行いました。

その結果、学校受付事務の受注、公共施設の窓口案内業務(各種案内・受付等)や区報配付業務の受注も拡大しております。

② 民間事業者の新規開拓

関係機関と連携した開拓や、文京区の特性である教育機関への働きかけを行いました。また、令和7年度においては、新たに、区内の比較的規模の大きな施設の窓口受付業務及び清掃業務を受注したほか、独自事業である包丁研ぎ事業を本年度も継続して実施しました。

③ 就業の質の確保と向上

当センターが地域や発注者からの信頼を高めていくためには、受注した仕事を適切に遂行していくことが重要です。そのために様々な研修会を実施して会員のスキルアップを図ってまいりました。また、令和7年度も派遣会員を中心に接遇研修を実施するなど、就業の質の向上を図りました。

(3) 安全を意識した就業

「安全・安心なシルバー事業」の確立を図ることは、シルバー事業遂行の根幹をなすものです。そこで、「安全はすべてに優先する」をスローガンに、組織を挙げて安全対策のより一層の推進を図り、重篤事故、傷害事故の撲滅及び健康の確保を図ってまいりました。

① 組織的な安全管理の強化

当センターでは、安全管理委員会を中心に安全対策を進めています。その中で、昨年同様、夏季に実施していた安全巡回を冬季にも行ったほか、一人KY(危険予知)カードを作成しました。さらに、昨年度同様、記

録的猛暑を踏まえ、空調服の希望者に対して、購入補助を実施しました。

- ② 会員向け研修の強化
会員一人一人の安全への意識を高めるために、会報「公益シルバーぶんきょう」に啓発記事を掲載しました。また、安全管理委員会のみではなく、班長会、仕事別グループ会議等あらゆる機会をとらえて事故防止の啓発を実施してまいりました。さらに、会員が自らの体力を把握することで、健康維持やフレイルへの意識づけを図るため、昨年度に引き続き体力測定を実施しました。

(4) 運営基盤の強化

組織として、適切に運営を継続していくため、業務執行の決定機関である理事会と理事会を補佐する各種委員会が円滑に機能していることが重要です。また、当センター業務に関係する法令改正等への対応は必須となります。これらに対応できるよう、安定した事務局運営を心掛けています。

① 理事会・各委員会の継続実施及び改善

理事会では、運営方針を決定するために、各種報告の確認等に留まることなく活発な意見交換が行われるよう、風通しのいい会議運営に努めました。また令和7年度より、あらたに衛生委員会を立ち上げて、継続就業の会員への対応を行ってきたほか、女性委員会においては、活発な意見交換に加え、講座の実施、保育園での絵本修理ボランティアを実施しました。

② その他

財政の適正性の確保のために、公認会計士から指導助言及び財務諸表等のチェックを受けています。また、いわゆるフリーランス法への適正な対応にも努めてまいりました。さらに、運営基盤の強化に向け、職員の積極的な研修参加を促してまいりました。